

明治神宮では、神前式がよく執り行われており、本殿への厳かな行列を目にするかもしれません。典型的な行列では、2 人の神職と 2 人の巫女の上に、赤い傘を差した幸せな夫婦、そして家族と友人が続きます。花嫁はたいてい、赤ふきの白無垢と、その形状により「綿帽子」もしくは「角隠し」と呼ばれる布の「帽子」を着用します。

式では神職が祝詞をあげ夫婦が 3 杯の御神酒を交互に飲みます。これは式の中でも重要な部分の一つとされており、ここでは酒の一口は誓いと同等であると見られています。その後、全誓いが交わされ、巫女が神聖な舞を舞うこともあります。儀式は再び厳かな行列をもって終了します。

神前式は神の前での結婚式を意味し、厳かなものであり、2 つの家族をつなぐ貴重な行事です。行列が通るときは道を空け、その場の威厳を保つようご協力ください。行列の邪魔にならないようにしてください。